

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所かめさんち					公表日	令和8年	2月	16日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		○活動内容に応じて、プレイルームや集まり室等活動場所を使い分けている。 ○活動に応じて、ブースの広さや部屋を検討し調整している。	○今後も引き続き、個別活動や集団活動といった活動内容に応じて対応していく。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		○活動目標や支援必要性に応じてリーダーに加え、サブの人数を検討している。 ○職員数は十分に配置されている。活動に応じてこどもとじっくり関わったり、観ることが出来るように職員配置に配慮している。 ○こどもが活動に向き合えるように活動によって職員の人数を考え配置している。	○今後も引き続き、こどもの課題や活動のねらいに応じて職員を配置していく。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	○活動内容やこどもの特性に応じて集中できるように必要に応じて環境が整えられるようにパーテーションを使用している。 ○こども達が職員の指示を聞いて物が取りにいけないような物の配置している。 ○クリニック内に設置された事業所の為にトイレ等こども達のサイズに合っていないため洗面台やトイレ等には踏み台や補助便座を設置している。	○時に配置された物が混在し、状況に適さず情報量が多すぎることもある。 ○物品の管理、整理整頓の必要性を感じる。 ○パーテーションでの仕切りの為に足元がひっかかりやすい。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○	○活動後の室内及び玩具・物品は消毒や清掃をしている。	○清潔とは言いつらい。多様な物が混在していることがある為に、片付けを常々気に掛けていく必要がある。 ○こども達に合わせた空間になっているとは言い難い。パーテーションに足をひっかけて転倒することもあるために配置等の改善が必要である。 ○院内の共有トイレとなっており、清潔さの維持や設備の使用しづらさを感じる。 ○療育の利用物品の収納管理が不徹底で、何があるのかわからないのがわかりづらさがある。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		○集中できるようにパーテーションで仕切った環境を設定している。 ○オムツ交換やパンツへの着替え等で個別のブースを作りそこで対応している。また、体調不良がみられた際にも個別に対応している。	○引き続き、必要に応じた環境設定に努めていく。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○	○週に1度ケース会議にて大半の職員間で目標設定の見直しに取り組んでいる。 ○個別活動、集団活動に関わった職員が記録に携わっている。	○Check(確認)、Action(改善)が不十分のこともある。会議で必要に応じた書式等を活用してもっと深めていく。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○1年に1度実施し、評価内容に応じて検討改善できるように見直す機会になっている。 また、日頃から面談や送迎時に保護者からの意向等が生じた際には全体で把握し対応できるように努めている。	○引き続き、保護者の意向を把握し、内容に応じた業務改善に努めていく。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○職員間でも面談を行い、意見が伝えられるようにしている。 ○ケース会議や日頃から意見を伝えやすい雰囲気作りを配慮している。内容に応じて改善策を検討している。	○引き続き、職員間で発言しやすい雰囲気作りを配慮し、業務改善に生かしていく。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	○保護者による療育参観や評価表を基に意見や支援の見直しにつながっていたと思う。	○どのようにしたら外部評価の機会が実施できるかを検討していく。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		○定期的な研修を職員に応じて受講し、参加者が研修報告を実施し、職員の質の向上を図っている。	○引き続き、職員の資質、療育の質の向上を目指し、研修内容を検討し機会を確保していく。				

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	○いつでも見れるように、保護者に用紙で配布し、ホームページへの掲載や事業所内に掲示している。	○新年度や新規利用者には支援プログラムの確認や伝達をしていく。また年度未等に見直し必要箇所は改訂していく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○	○週に1度のケース会議を通して、個々の子どものニーズや課題の擦り合わせはできていると思う。	○引き続き、ケース会議を活用してニーズや課題の分析を行っていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	○常々職員間で子どもの成長や課題について話をするようにし、共通理解できるようにしている。	○ケース会議を通して、全職員で支援計画に反映する内容や課題を話し合い、より深まった計画を作成し支援につながるような共通認識に努めていく。 ○全職員間で検討できるようにねらいや今の子どもの状況や困り感について把握し、同じ方向を目指して療育の実践を目指していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	○子どもによってどこを伸ばしていっていいかなどを会議で話し合い、それをもとに活動へ取り入れている。	○共有が不十分である。一人一人が支援に入るにあたり支援計画に沿った統一した支援を行えるようにケース会議等で支援計画書を見て職員間でズレのない支援ができるようにしていく。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	○モニタリングや保護者から伝達があった特性や情報を会議間で共有し、記録し見直せるようになっていく。	○引き続き、遠城寺式や太田ステージの評価や、活動後の振り返りや保護者からの伝達によって適応上状況を適時確認していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	○日頃の活動の振り返りやケース会議等を通して現状を把握し、子どもの特性や課題から必要な項目を決定し、支援内容を設定している。	○引き続き、子どもの支援に必要な項目を設定できるように子どもの現状を把握できるように職員や保護者間での連携に今後も努めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	○立案や振り返りの際にどのように支援していくか、また課題の擦り合わせをしてプログラムを立てるようにしている。 ○計画全体はリーダーを中心に行っているが、ねらいなどは共有し、具体的な支援内容はチームで検討している。	○立案に際して職員間での話ができるように可能な限りチームでの話し合うことを意識していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	○同じ内容でもレベルや物品をかえる等般化を配慮し、変化しても変わらず対応する力を育てている。	○個別活動、集団活動にて同じような活動(課題内容)が続く時もある。各スタッフが、ねらいに応じて内容や物品に工夫をしたり、変更や追加したりと般化する意識を高めていく。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	○子どもの状況や課題に応じて必要な活動内容をケース会議で検討し、支援している。	○引き続き、子どものねらいに応じて個別活動と集団活動を組み合わせた支援を実践していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	○開始前に計画書に基づき、打ち合わせや対応方法を話し合っている。	○引き続き、子ども達や活動のねらいを意識して職員間で連携した支援に努めていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	○終了後は活動を振り返り、計画書に基づいて一人一人の課題や対応、気付いたことを話し合うようにしている。	○職員の勤務時間に応じて重点内容を絞り込み振り返りを行い、会議にて気づきの共有に努めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	○記録を日々行い、課題をケース会議にあげ職員で把握し、改善につながるようにしている。	○日々、日誌及び個別記録をとり支援の検証・改善に備えているが、記録内容に見合う活用が十分とは言い難い。記録内容について書式等簡易的にできるかを職員間で検討して改善していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	○6か月を目安にし、モニタリングを行っている。結果、目標によっては継続することもある。子どもにとって適切な目標や支援内容が見直しできるようにしている。	○引き続き、定期的にモニタリングを実施し、見直しを行う際に職員間でも共有できるように努めていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	○子どもの状況を関係スタッフから情報を共有した上で児童発達支援管理責任者が参画している。	○会議に応じて子どもの状況を理解した職員が参画していけるように配慮していく。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	○保護者を通して、一人一人の子どもに応じた関係機関を把握した上で必要に応じて関係機関と連携している。	○今後も支援を通じた気づきを必要な機関と連携できるように配慮していく。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	○子どもに応じて併行利用園に訪問を行い、園とも情報共有を行っている。	○今後も、子どもにとっての課題や困り感に沿って、地域での暮らしやすさが高まるような合理的な配慮を見出し、共有できるように努めていく。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	○就学前に移行支援シートを作成し、学校の方針に基づき面談等で情報共有をしている。	○3学期に移行先に問い合わせ、移行支援シートを介した共有に努めていく。	
	(28～30は、センターのみ回答)				

関係機関や保護者との連携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		○地域の児童発達支援センター主催の研修等を通して情報や助言が得られるように努めている。	○支援等必要に応じて相談できるように児童発達支援センター等他事業所との関係を築いていく。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		○未就園のこどもを対象に園との交流を行っている。	○多様な園との交流ができるように企画していく。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		○振り返りや事業所のLINEを活用して状況や課題を伝えている。内容によっては個別に伝え、保護者の思いに沿うように努めている。	○今後もこどもの状況に応じて伝え合うことが出来るように保護者との関係を築いていく。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		○送迎時等に話をする機会をもち、ニーズに応じてスケジュール(1日や1週間、必要な絵カード)やトークン(シール用紙や約束)の提案をしている。 ○保護者向けの研修の案内はLINEや配布等で連絡するようにしている。	○家族に対する情報提供は十分とは言い難い。伝える内容について職員間での勉強会や研修等で知識を高めていく。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		○利用開始に際して各説明を行い、不安が生じないような対応を配慮している。	○全職員が対応できるように内容については把握し、必要に応じて改訂していく。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		○日頃から送迎時等の話や作成前のモニタリングにて、1番困っていることやできるようにしてほしいことを聞き取り、職員間でも共有できるように報告している。	○日頃からこどもや保護者と関わりの中からも意向を確認できるように配慮し、必要に応じて職員間でも情報共有していく。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		○作成後に計画を示し、保護者への説明を具体的に伝わるように配慮して行っている。	○個別にじっくりと伝えられる時間や環境に配慮して行っていく。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		○年間予定で期間をお知らせし、個別に予定を確認した上で面談を実施している。	○今後も定期的に面談を実施していく。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	○振り返りや参観の際に保護者同士が交流する機会とはなっている。	○利用日が異なる保護者間や、きょうだい同士に関しての交流の機会がない。交流の機会を検討していく。 ○保護者同士で話す機会を設ける為に以前は毎月実施していた茶話会を定期的に変更する。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		○相談内容に応じて他職員と共有し、情報や提案を迅速に回答できるように対応している。	○こどもや保護者に対して、必要に応じて相談や申入れへの対応が迅速にできることを利用時の説明や月報等で定期的伝えていく。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		○お知らせやお願い、活動概要等の情報を毎月月報を作成し、LINE配信、用紙配布をしている。	○伝達内容については職員間や研修にて検討し、必要に応じた情報を発信していく。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		○書類の廃棄はシュレッターを使用し、個人情報を持ち帰らないようにしている。	○職員間で個人情報への意識が高まるように定期的に取扱いについて振り返って検証していく。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		○絵カードやスケジュール等視覚的に伝わりやすい配慮を行っている。	○効果のある対応手法について出し合って配慮や留意点を職員間で共有していく。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	○法人内でも探っていく。	○地域の方々を招待するような行事を行っていない。地域に開かれた運営を検討していく。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		○マニュアルを作成し定置に配置し、定期的に避難訓練(火災や地震)を実施している。	○マニュアルや訓練について職員間でもより共有することでマニュアル内容や訓練実施の想定を改善していく。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		○地震や火災等の避難訓練を定期的実施している。	○職員間で業務継続計画や避難、救出その他必要な訓練について共有し検討の上実施していく。	

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	○利用開始時に、現況を確認し、その後連絡を受けた際には都度確認するように努めている。	○書式を用いて保護者と確認後、職員間で共有して対応していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	○保護者から聞き取り、職員で共有し、アレルギーがある子が利用する際には提供しないように配慮している。また除去食の対応について保護者の意向があれば沿うように対応している。	○今後も、利用開始の際に食物アレルギーについて確認を行っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	○安全計画を作成し、活動を通して安全管理を意識した支援を配慮している。	○今後も、安全管理に必要な研修や訓練を意識して過ごし、安全計画に沿った支援の実施に努めていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	○利用開始の際にLINEの追加や緊急事態時の避難場所の確認をしている。	○今後も、安全確保に関して必要な取り組みを職員間や研修等での情報から検討していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	○危険やヒヤリがあった際には、ケース会議等で共有し対策を検討し、再発防止に努めている。	○活動時のヒヤリハット事案に気づくように配慮していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	○定期的な研修や振り返りを通して、虐待防止の観点で支援の在り方を検討する機会を設けている。	○今後も、虐待について話し合う機会を通して、各自の行動を振り返るように努めていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	○こどもの様子に応じて安全対応のためにやむを得ず身体拘束が必要となるかを職員間で検証した上で、実施に向け段階的に対応していく。	○現況の実施はないが、必要な場合が生じた際には、事前に説明し了承を得て、児童発達支援計画に記載していく。